

生 活 科 学 習 指 導 案

2 年 4 組 24 名 指導者 松 村 千 賀

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 野菜の特徴に着目する導入の工夫により、子どもたちが活動への見通しや意欲をもつことができたか。
(研究内容 1)
- 栽培する野菜が同じグループで観察を通した見つけた気づきを紹介し合うこと（かかわり合い）で、野菜の特徴や変化に気付いたり、これからの世話への意欲を高めたりすることができたか。
(研究内容 2)

1 単 元 おいしいやさいになあれ

2 目 標

自分の野菜を大切に育てることを通して、野菜の変化や生長の様子に気づき、野菜への親しみをもち、それらは生命をもっていることや世話を頑張った自分のよさに気付くようにする。

3 単元の評価規準

- 育てたい野菜を決め、野菜栽培に興味・関心をもって、大切に育てようとしている。
【生活への関心・意欲・態度】
- 野菜の育つ場所、変化や生長について考え、世話の仕方を工夫したり、成長の様子を自分なりに表現したりしている。
【活動や体験についての思考・表現】
- 野菜は、生命をもっていることや野菜を育てた喜び、自分の成長に気付いている。
【身近な環境や自分についての気づき】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、学習指導要領の内容(7)「動植物の飼育・栽培」をもとに、「キ 身近な自然とのふれあい」の視点を位置付けて単元を構成している。単元の構成に当たっては、夏に収穫できる野菜を学習対象とし、自分の野菜へ親しみをもち、大切に育てる中で、野菜の生長や変化の様子を知ったり、野菜が生命をもっていることや頑張って育てた自分の成長やよさに気付くことをねらいとしている。また、植物を育てることへの喜びも味わわせ、これからの自分の生活の中で植物を育てることができるようにしていくことも大切にしたい。

これまでに子どもたちは、アサガオなど草花の栽培を経験しているが、植物の栽培は、長時間にわたる継続した世話が必要なこと、変化がゆっくりなことなどから、子どもが主体的にかかわり続けることが難しいという実態がある。そこで、収穫の楽しみを味わうことのできる野菜を学習対象とし、大切に育てていく気持ちを持続させる工夫が必要になってくる。

また、子どもは、気付いたことを比較したり、分類したり、関係付けたりして考える。そして、そこには、新しい気づきが生まれてくる。気づきをもとに考える学習活動を行うことで、子どもの気づきは、次第に質的に高まっていく。そこで、「見つける」「比べる」「たとえる」などの学習活動を充実させることが求められてくる。この経験が、中学年以降の理科学習にも大きくつながっていくであろうと考える。

(2) 子どもの実態と指導

本単元における子どもたちの実態を、アンケートや日常の観察から、次のようにとらえた。

① 生活への関心・意欲・態度

植物を育てた経験といえば、学校や幼稚園、保育所でのみという子どもが半数以上である。野菜の栽培となるとほとんどの子どもが経験していない。しかし、自分の手で野菜を育ててみたい、自分で育てた野菜を食べたいという思いや願いは大きい。愛着をもって育てるため、自分の育てたい野菜を栽培させ、野菜への愛着をもたせる工夫を行い、継続した世話ができるようにしていくようにする。

② 活動や体験についての思考・表現

継続した世話が難しい子どももいるため、毎朝行っている健康観察からヒントを得て、朝、野菜の健康観察簿に様子を記入させることにより、毎日関わりさせるようにしていく。また、おいしい野菜をたくさん収穫できるように、これまでの栽培活動を振り返らせたり、どのように育てたらよいか家族や学校主事、野菜づくり名人などに尋ねながら世話を工夫させていくようにする。

③ 身近な環境や自分についての気づき

自分が世話を頑張ったことが野菜の生長につながっていることを自覚することは難しい。無自覚な気づきを自覚させるために、自分のめあてをもって活動させたり、活動や観察の記録を残したりして、気付いたことを価値付けるようにする。

5 指導計画（総時数11時間＋常時活動）

過 程	主 な 学 習 活 動 【評 価 規 準】	時間
であう みつける	1 育てる野菜を決め、育てる目的をカードに記入する。 2 野菜を買いに行き、育てる野菜の苗を植える。 【関：育てたい野菜を決め、野菜栽培に興味・関心をもって、大切に育てようとしている。】 育てる時期、鉢植えという環境を考えて、育てたい野菜を自分で選択させたり、育てる目的を明確にしたりすることで、野菜への愛着をもつことができるようにする。 	4
かかわる	3 野菜の生長の様子を観察し、必要な世話をする。 【思：野菜の育つ場所、変化や生長について考え、世話の仕方を工夫したり、生長の様子を自分なりに表現している。】 観察や世話の際、かかわり合う活動を通して、気付きを広げ深めるようにする。また、毎朝、野菜の様子を観察簿に記入させ、生長や変化に気付かせることで、その時にあった世話を考えることができるようにする。 	4 (本時)
つたえあう つなげる	4 自分で育てた野菜を収穫し、栽培活動を振り返る。 【気：野菜は、生命をもっていることや野菜を育てた喜び、自分の成長に気付いている。】 育てている野菜になりきって、野菜の気持ちを考えることで、野菜の命を大切に、世話を頑張っている自分自身のよさを自覚させるようにする。 	3

6 本時（6／11）

(1) 目 標

つるや葉、花の特徴などを観察したり、気付いたことを情報交換したりすることを通して、野菜の特徴や変化に気付くようにする。

(2) 評価規準と評価の視点

野菜の特徴や変化の様子に関心を持ち、気付いたことを伝えようとしている。

《評価の視点》

- ミニトマトは、小さくて黄色い花がさくんだな。
- 野菜によって葉っぱの形や大きさが違うんだな。
- 大切に育てて早く収穫したいな。これからもお世話を頑張ろう。
- お世話を頑張ったから野菜が大きくなったんだな。

(3) 指導に当たって

これまでに子どもたちは、「サラダにして食べたい。」などという思いをもち、大切に野菜を育てている。そして、大まかな野菜の生長を実感している。

そこで、本時では、自分の野菜を観察したり、友達の野菜と比べたりしながら、自分の野菜の特徴や変化を詳しく観察し、もっと愛着をもたせ、自分の野菜を大切に育てていきたいという思いを膨らませるようにする。

「であう・みつける」活動では、野菜クイズをすることで野菜の特徴に着目できるようにする。また、これまでの栽培活動を称賛し、野菜が順調に生長していることに気付かせたり、育ててきて良かったという思いを高めたりできるようにする。

「かかわる」活動では、虫眼鏡などを使ってじっくり観察させたり、グループで気付きの共有化を図ったりして、野菜の特徴に気付かせていくようにする。

「つたえあう・つなげる」活動では、気付きの共有化から野菜の生長に気付かせ、順調に生長してきたのは、世話を頑張った自分がいたからということに気付かせ、これからの栽培活動への意欲付けや野菜への愛着を高めていくようにする。

過程	時間	形態	主な学習活動と指導の手立て・評価	教材等
であう・みつける	(分) 7	みんなで	1 野菜クイズをする。 ・葉が細長いよ。何だろう。ピーマンかな。 ・ぼくの育てているミニトマトではないな。 ・見えると分かるのにな。 2 本時のめあてをつかむ。 じぶんのやさいのことをもっと知ろう。	ブラックボックス どうもこのお 学習進 行表
か か わ る	20	みんなで 一人で グループで	3 司会団と一緒に調べる視点について話し合い、自分のめあてを立てる。 ・葉について調べよう。 ・花もさいているから調べられるよ。 ・つるについても調べられそうだよ。 4 自分の野菜の特徴や変化を調べる。 ・ミニトマトは、小さくて黄色い花だよ。 ・ナスは、花も葉も紫だよ。 ・ざらざらしているのは、毛があるからだね。 5 グループごとに気付いたことを紹介し合う。 ・きゅうりの花の下に赤ちゃんきゅうりがついてるよ。 ・よく見ると、ナスの葉の裏には、とげがあるんだね ・本当だ。ミニトマトは、トマトのにおいがするよ。	ワーク シート ものさし 虫眼鏡 タイマー 小黒板
つたえあう・つなげる	18	みんなで 一人で みんなで	6 司会団と一緒に気付いたことを伝え合う。 ・花の大きさは、野菜によって違うんだな。 ・色もちがうよ。 ・〇〇さんみたいに花が早く咲くといいな。 7 気付いたことを野菜カードに記入する。 ・葉っぱの形のぎざぎざをかこう。 ・葉っぱには、毛が生えていたからその毛をかくよ。 ・わたしは花のことをかきたいな。 8 活動の振り返りやこれからの野菜の世話について話し合う。 ・収穫が楽しみだな。 ・これからも、水掛け頑張るぞ。	視点マーク